

生徒アンケート 成果と課題

■ あてはまる ■ どちらかといえばあてはまる
■ あてはまらない ■ どちらかといえばあてはまらない

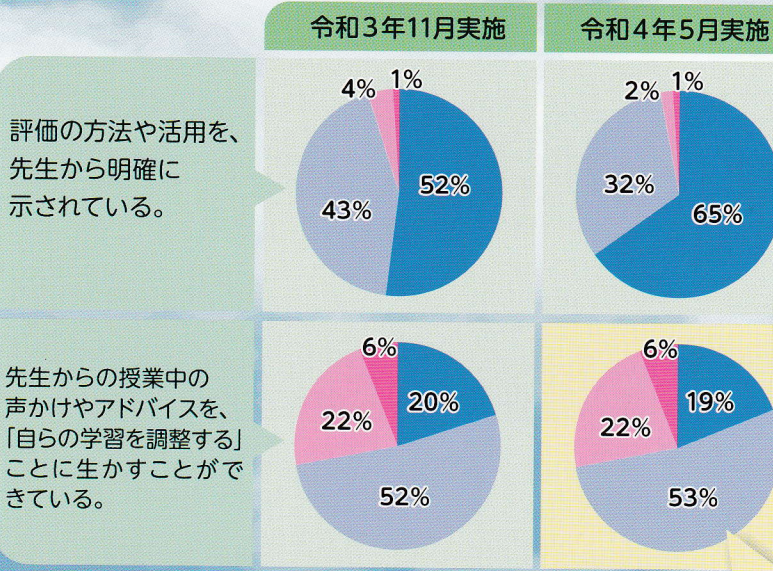
2回とも「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせて共に95%を超え、「あてはまる」が上昇した。

▶生徒自身が学習目標を意識した上で、学習を行う環境が充実してきている。

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせて共に70%程度ととどまっている。

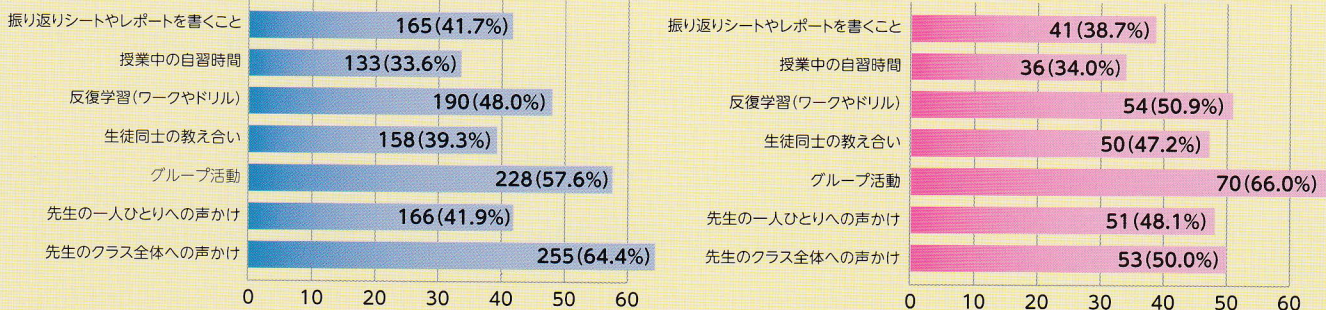
▶「何を学ぶのか、習得するのか」「どんなふうに学ぶのか、習得するのか」という意識までつなげていくことが課題

東中学校生徒・全学年対象



左：「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」(396人)と
 右：「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」(106人)の2グループに分けて、「自らの学習を調整すること」につながる方法についての集計結果である。

どのようなことが「自らの学習を調整すること」につながると感じますか。「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」解答群



『自らの学習を調整すること』につながる方法として「あてはまる」の生徒が「先生のクラス全体への声かけ」を最も多く選んでいることに対して、「あてはまらない」の生徒は「生徒同士の教え合い」や「グループ活動」を多く選んでいる。この結果は、授業者が授業内評価を行う中で、クラス全体の学習に対する理解度や学習目標に応じて、どのような学習を展開していくのかという授業計画をする際に考慮すべきことが含まれていると考えられる。どのような声かけをし、どのタイミングで声をかけるのかも、課題の1つとしていえるだろう。

成果と課題

授業者が授業内評価を意識して授業を行うことによって、指導と評価がより一体化した授業づくりの実践を重ね、**教員自身の授業改善**へと大きくつながった。また、生徒にとっても**学習目標を意識した上で学習を行う環境が充実**していくことで、自身の学習状況を振り返る機会となり、目標と手立てを見つける切り口となっている。しかし、より学習目標を達成するためには、「何を学び、何を身に付けさせるか」を「どんなふうに学んでいくのか」という**方法まで**つなげていく必要がある。このことを念頭に置きながら長期的な展望で授業をすることが肝要であり、これからも継続した課題となっていくであろう。